

奉神礼基礎講座 8 八調で歌う 入門2

Slide 2 生神女就寝祭

前回、パスハのイルモス、特に単音の「神の使い」がなぜ難しいのか、どうすればカンタンにできるかをお話ししました。これから8月9月、12大祭が続きますが、楽譜を見ると、いずれのイルモスも頭を抱えなくなる。コマツタ。そんな悩みを解決します。

正教聖歌は、本来もっとカンタンなものです。どうやったらカンタンに歌えるか、今回は生神女就寝祭を例に挙げて、お話しします。

前回の講座で、聖歌は、今は楽譜に書かれているけれども、いわゆる近代的な意味での西洋「音楽」とは異なる、という話をしました。アイコンが西洋美術と異なるのと同様に、正教会の「音楽作り」は、考え方においても、手法においても根本原則が異なります。五線譜の楽譜は便利なので教会でも広く使われています、私も使いますが、もともとの目的が異なるので、違いを押しえた上で、用いましょう。

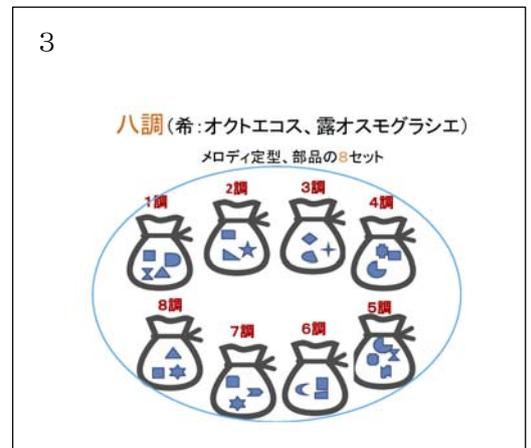
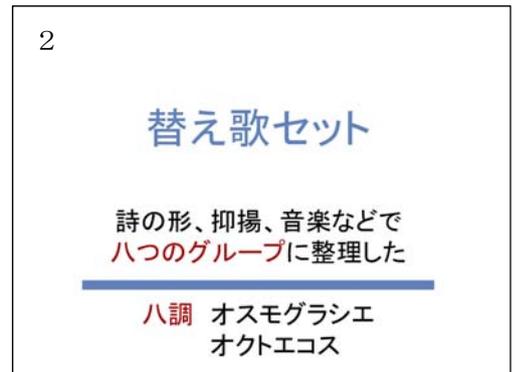
四声の合唱で歌うにせよ、単音で歌うにせよ、正教の音楽作りの原則を念頭におくと、いろいろ謎がとけます。

さて正教会が古代から保ち続けている伝統のひとつが「ことばを歌う」ことです。音楽は「ことばを運ぶ」器です。「ことばを歌う」ために編み出された基本技能が、今日これからお話しする「八調」「八つの調」のシステムで、7世紀から8世紀頃できたと言われます。

Slide 3 替え歌セット

正教会では聖歌はだいたい9世紀にはできあがっていたと言われますが、なかでも1番たくさん聖歌が作られたのは7世紀から8世紀ごろで、その中心はエルサレム郊外の聖サワ修道院でした。聖歌が作られたといっても、今どきの作曲とは異なり、新しい歌は、歌詞のことばもそれを載せる音楽も、古い歌を下敷きにして「替え歌」のように作られました。祭日経や八調経など歌のことばを収録した祈祷書を見ると、よく似た歌が並んでいます。現代人から見ると、「ちょっと言葉変えただけじゃない」「ただのパクリじゃないか」と思いますが、オリジナリティなど不要、コピー、模写は正教の伝統です。アイコンと同じです。

そうやって作られたたくさんの「替え歌」を、詩の形、それを歌うときの音楽によって、種類ごとに8つに分類したのが八調で、そ



これを収録した本が『八調経』です。ダマスクのイオアンの仕事と伝えられています。

Slide 4 八調、八つの袋

「八調」とはギリシア語でオクトエコス、ロシア語でオスモグラシエといいますが、「八つの調、「八つの調べ」の意味です。「替え歌」を作るのに必要なメロディのパターン、メロディの部品を「調」ごとに8セットに分けて使いやすくしたのが「八調」のシステムです。

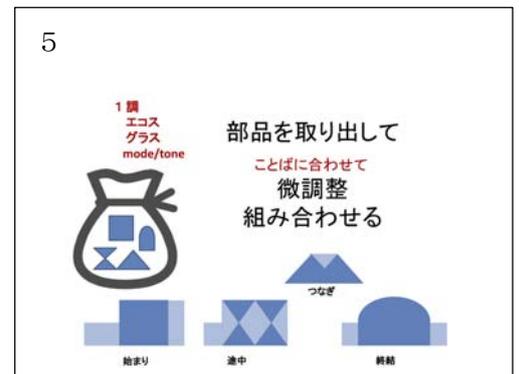
イラストでは八つの袋に色々な部品が入っています。それぞれの袋には、その調に特徴ある部品、つまりメロディ・パターンが色々入っています。



Slide 5 袋から部品を取り出して

袋の中には始まりの部品、途中の部品、飾りの部品、終わりの部品、ほかにオールマイティに使えるつなぎの部品もあります。聖歌はこれらの部品を記憶しています。祈祷書を見て、何調と書いてあるかを確認し、祈祷文のことに合わせて部品の形を調整しながら歌います。難しそうに思えますが、たとえば6調は「天の王」のメロディです。祈祷文を見ながら「替え歌で」歌ってみるとできます。

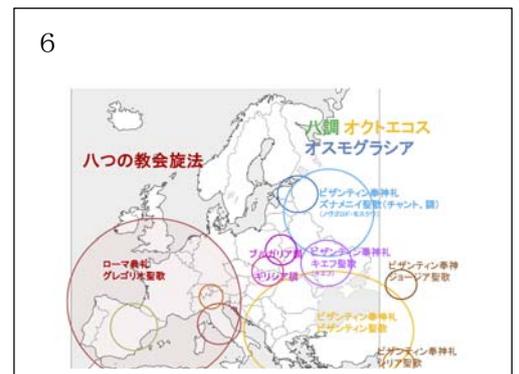
メロディのパターンを組み合わせるという手法は専門用語でセントニゼーションといいますが、古くから広く西アジアで行われてきました。



Slide 6 八つの調のシステム、八つの教会旋法 (地図)

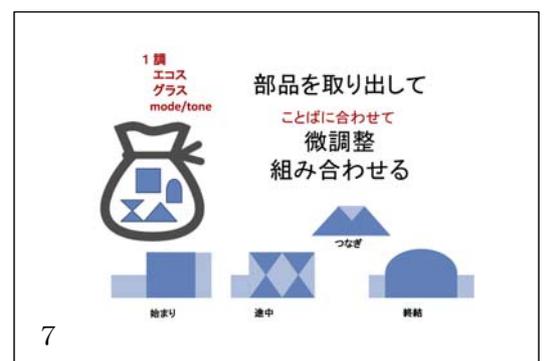
8つの調のシステムは西方にも伝えられて、グレゴリオ聖歌の教会旋法になりました。

今のギリシアのビザンティン聖歌では調によって音階も異なりますが、ロシアでは音階というより、メロディの部品の形、種類に特徴があります。ロシアは広いですから地方によって八調のバリエーションが生まれました。



Slide 7 部品を取り出して

どこの国でも、正教聖歌は、今でも「八調」のシステムを基本にしています。ギリシアやロシアの神学校、聖歌学校や研修会では聖歌のコースで一番最初に教えられます。この仕組み、手法を身につけることで、どんな歌でも祈祷文を見れば歌えます。日本では明治以来、聖歌は西洋音楽と同じく「楽譜」を見て、楽譜通り歌うもの



と考えられてきましたが、それはニコライ大主教が「八調」のメロディに馴染んでいない日本人のために考案した「特例措置」でした。

「楽譜がないから歌えない」「楽譜が読めない」「どっちの楽譜が正しい」などのご意見を聞きますが、楽譜はなくても歌えます。楽譜を見るときも、音符をひとつひとつの音として拾って歌うと「むずかしい」ものも、メロディのかたまり、部品の繰り返し、ととらえるとカンタンなことがしばしばあります。

Slide 8 正教聖歌の伝統

今日本で歌われている聖歌も19世紀ロシアで使われた八調のセットをもとにしていますが、これはちょっと特殊事情があって、調ごとの違いが見えにくくなっています。これについては、私の別のシリーズ「正教聖歌の伝統」の8で詳しくお話ししようと思いません。今、制作中です。

Slide 9 生神女就寝祭

さて、前置きが長くなりました。

今日は生神女就寝祭を取り上げて、イルモス1調を攻略します。この茶色の祭日聖歌譜に載っているイルモス、見ただけで「むずかしそう〜〜」です。以前、ロシアで聖歌の勉強をされた方に聞いたら、「こんなややこしいのは普通歌われていないですよ」と言われました。一般にはもっと単純です。前々回「棒読みのススメ」のときに、歌えなければ「棒読みすればいいよ」という話をしました。それでも十分です。でも、せっかくだから、伝統の「替え歌」手法を試してみましょう。

さて、生神女就寝祭のイルモスは1調です。イルモスはカノンの中にある歌です。カノンが1調ならイルモスも1調です。「替え歌」のススメ、替え歌と言うからには「元歌」がいます。よく知っている歌を元歌にします。イルモス1調、みなさんがよくご存じなのは「降誕祭」のイルモス、「ハリストス生まる、崇め讃めよ」でしょう。前回のパスハのイルモスも1調ですが、パスハ専用なので、ほかには使えません。

Slide11 イルモス1調の基本部品

降誕祭の第1歌頌のイルモス「ハリストス生まる」この歌を部品に分解します。ことばの音節数や抑揚によって、変化がついていますが、核になるパターンを見つけます。

9

生神女就寝祭 イルモス (1調)

生神女就寝祭  
カノン 1調  
イルモス 1調  
降誕祭  
「ハリストス生まる、崇め讃めよ」

10

イルモス1調の 基本部品

降誕祭の場合

① 開始 ② 終結 ③ 発展

- ① ハリストス生まる、崇め讃めよ
- ② ハリストス天よりす、讃えよ
- ③ ハリストス地にあり、上げれよ
- ④ 地こぞって、主に歌えよ。
- ⑤ 人々や、楽しんで讃め讃めよ
- ⑥ その光栄讃げばなり

11

大まかに見ると、三つの部品が見えてきます。

- 「ハリストス生まる、崇めほめよ」ここが始まりの部品、
- 「ハリストス天よりす、迎えよ」で納める、終わりの部品。
- 「ハリストス地にあり、上がれよ」で発展させて
- 「地こぞって、主に歌えよ」で納める
- 「人々や、楽しんで崇め讃めよ」で始まり
- 「その光栄、輝けばなり」で終わります。

始まりの部品、終わりの部品、発展の部品を楽譜に書くようになります。+が書いてある部分はことばの音節によって数をふやすことがあります。() でくくった音は省略されることがあり、このファの#の音はシャープのない音になることもあります。シャープを取るとトロパリの1調とそっくりです。ほかにも音節数や抑揚によって音を足したり、引いたり、延ばしたりします。音一つ一つではなくて、かたまりとして見て、核となるパターンを捉えてください。

第3歌頌以下も、このパターンで作られています。ただ、ロシア語の、スラブ語の抑揚に合わせてメロディを変化させたものを記録した楽譜から、そのまま日本語をあてはめてある場合もあるので、わかりにくくなっています。

Slide 12

さて、祈祷書を見ましょう。祈祷書に親しむことはとても大切です。祈祷書には謎解きの鍵や、お宝が隠されています。

イルモスは「カノン規程」という歌の中にあります。

カノンとは7世紀ごろから修道院で作られるようになった歌の形式で、旧約聖書にある9つの歌、旧約の歌頌が元になっています。9つの旧約の歌が旧約聖書のどこから取られたかという、これが一覧で、たとえば第1歌頌のテーマは出エジプト記にある、イスラエルの民がモーセに率いられ紅海を渡ったあと、モーセが神を讃えて祈った歌です。ベースは出エジプトの出来事で、それがハリストスとどうかかわるのか、新約においてどのように成就したかを歌う短い歌が三つから四つあります。その一つ目の歌がイルモスと呼ばれます。イルモスとは「連結」の意味で、「つなぐ」の意味で、旧約と新約をつなぐ、9つの歌頌をつなぐという意味があります。二つ目以下は讃詞、トロパリと呼ばれますが、附唱、たとえば「主や光栄は爾の聖なる復活に帰す」とか「至聖なる生神女や我等を救い給え」などを添えて読まれます。

カノンと旧約の歌頌(オーディ)		
第1歌頌	モイセイ(モーセ)の歌	出エジプト 15:1-9
第2歌頌	モイセイ(モーセ)の歌	申命記 32:1-43
第3歌頌	アンナ(ハンナ)の歌	列王記: 2:1-10
第4歌頌	アワクム(ハバクク)の祈り	ハバクク3:1-19
第5歌頌	イサイヤ(イザヤ)の祈り	イザヤ26:9-20
第6歌頌	イオナ(ヨナ)の祈り	ヨナ2:3-10
第7歌頌	三人の少者の祈り	ダニエル 3:36-56
第8歌頌	三人の少者の祈り	ダニエル 3:57-88
第9歌頌	生神女の歌	ルカ 1:46-55
	ザハリア(ザカリヤ)の祈り	ルカ 1:68-79

第 2 歌頌は大斎の平日にしか行われませんから、実際は、8 つの歌頌です。第 9 歌頌は生神女をテーマにしていますから、厳密に言うとな新約ですね。

Slide13

祈祷書から歌の歌詞を見つけ、祈祷文がどういう構造になっているか見極めます。祈祷書を見ることはとても役に立ちます。どんな歌でもそうですが、意味がわからないと、歌として表現することも、人に伝えることもできません。あとで楽譜に書くことも考えて、とりあえず横書きにしてみましょう。

祈祷文は聖師父が歌ったことばを書き記したものです。過去の聖師父のことばが「歌として歌われて」「引き起こされて」初めて、歌のことばが目に見える形になります。



Slide 14 sample 1 区切る

三つの部分に分けることができるでしょう。日本語は文法構造が異なるので意味がわかりにくいときがあります。そういうときは英語の祈祷書が参考になります。ロシア語やギリシア語ができれば申し分ないですが、英語もインドヨーロッパ語で日本語よりは近いので、助けになります。

まず、

1、童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は

「童貞女よ」と呼びかけ、聖にして高名なるあなたの記憶は神の妙なる光栄に飾られた衣に装われた。

2. 衆 信者を聚めて 之を楽しませ、始むるマリヤムに随いて、舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ、

すべての信者を喜びに集め、舞と太鼓をもったマリヤムに率いられて、彼らはあなたの独生の子に歌う。

3. 彼巖に光栄を顕したればなり。

なぜならば、あなたは巖かに光栄を顕すから。

第 1 歌頌は、出エジプト記 15 章のモーセ (モイセイ) の歌です。イスラエルの民がモイセイに率いられて、紅海を渡り、モイセイが神を讃えて祈りげ、モイセイの姉マリヤムがタンバリンを手に踊る場面が下敷きになっています。最後の「彼光栄を顕したればなり」は旧約聖書そのもののことばです。

内容は、生神女に向かって、紅海を渡ったあとマリヤムに率いられて神の光栄をたたえて踊ったように、私たち信者も集められ、あ



あなたに随って、あなたの独り子ハリストス神を讃えて歌います。最後に「なぜならば、あなたは光栄を顕す」とまとめます。こういう形、いろいろ祈って、最後に「なぜならば」とまとめるは正教会の祈りによくありますね。「蓋・・・」です。

Slide 15 Sample 2. 一行目

フレーズごとに、始まりの部品、終わりの部品を組み合わせるてあてはめてみます。

どの部分にどの部品をあてはめるか考えます。「童貞女よ、神妙の光栄に装われたる」までで切って①のメロディを、「聖にして尊栄なる爾の記憶は」に②のメロディを入れてみましょう。

音の動くところ、「童貞女」のところ、と「装われたる」のところを考えましょう。どちらがことばに合うか、歌いやすいか、聞き取りやすいか、いろいろな面から考えます。ことばの抑揚に合わせて音を足したり引いたりして合わせます。ドレミと始まっていますが、レミと始まってもいいし、ミミミと始まることもできます。たとえば、既製品の服を着る人に合うように、丈を詰めたり、幅を広げたりするのに似ています。

Slide 16 Sample 3 一行目

あるいは区切り目を替えて、「童貞女よ、神妙の光栄に」まで①のメロディにして、「装われたる聖にして尊・・・」以下を②のメロディをあてはめます。この方が、「神妙の光栄に」で盛り上がりあって、「装われたる聖にして尊栄なる爾の記憶は」と続いて、落ち着きがいいかもしれません。

Slide 17 Sample 4

次のフレーズにゆきます。「衆信者を集めて之を楽しませ、始むるマリヤムに随いて、舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ」を見ます。どこで切りましょうか。「これを楽しませ」のあとで切ってみましょう。「衆信者」の部分、「衆信者」と歌うか、「衆・信者」と歌うか「衆」と「信者」は別のことばだから、Bの方が聞いたときにわかりやすいかもしれません。「これを楽しませ」もいろいろできます。

Slide 18 Sample 5

続いて、②の部品「始むるマリヤムに随いて・・・」Aのようにシンプルでもいいんですが、ちょっと面白くないかな。「始むるマリヤム」の「始むる」、英語の祈祷書には見当たらないことばで、

15

Sample slide 2

①始まり ②終結 ③発展

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は、

A 童貞女よ、神妙の光栄に装われたる

B 童貞女よ、神妙の光栄に装われたる

② 聖にして尊栄なる 爾の記憶は

16

Sample slide 3

①始まり ②終結 ③発展

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は、

① 童貞女よ、神妙の光栄に装われたる

② 聖にして尊栄なる 爾の記憶は

17

Sample slide 4

①始まり ②終結 ③発展

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は、

① 衆信者を集めて之を楽しませ、

② 始むるマリヤムに随いて、舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ、

A 衆信者をあつめてこれを たのしませ

B 衆信者をあつめてこれを たのしませ

C 衆信者をあつめてこれを たのしませ

18

Sample slide 5

①始まり ②終結 ③発展

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は、

① 衆信者を集めて之を楽しませ、

② 始むるマリヤムに随いて、舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ、

A 始むるマリヤムに随いて 舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ

B 始むるマリヤムに随いて 舞と鼓とを以て 爾の独生子に歌わしむ

「かつての」というように時制をあらわす意味かもしれません。かつてのマリアム、今の生神女という対比です。

Slide 19 Sample 6

で、ここで、③の発展の部品を使ってみましょう。モーセ時のマリアムと新約の生神女マリアを対比させているとすれば、強調されているはずで、ちなみにマリアムとマリアは同じ名前です。

さらに変化をつけて、つなぎの部品をつけて、こんな風にすることもできます。調の特徴となる部品のほかに、つなぎに使えるオールマイティの部品がいくつかあります。オールマイティの部品は他の調とも共通のことがあります。

Slide 20 Sample 7

あるいは区切り目を替えて、「衆、信者を集めてこれを楽しませ」のところに発展部品を持っていくとこうなります。それだけでは収まりが悪いので、「つなぎの部品」をいれて、延ばしてみました。これだと「信者みんなが集められて、喜びにあるんだよ、だから旧約聖書に預言されていた、マリアムが歌い踊ったように、私たちがハリストスに歌うよ」というストーリーが強調されます。

Slide 21 Sample 8

最後のフレーズに行きます。

「彼巖に光栄を顕したればなり。」短いですが、「終わり」になるように納めなくてはなりません。たとえばA「彼巖に光栄を顕したればなり。」

古い正教聖歌の場合、「光栄」などの神を讃える重要なことばには、高い音、動く音をあてはめるという習慣に則って、Bでは「光栄は」と高い音を入れてみました。

AやBのように始まりのメロディを使ってもいいのですが、C、Dのように発展③のメロディを応用して「彼巖かに光栄を」と歌って、「顕した一れば」とちょっと延ばしてあげると、収まりがよいかも知れません。ちなみにこの「彼巖かに光栄を顕したればなり」はモーセの歌そのものから取ったことばで、新共同訳聖書では「主は大いなる威光を現し」と訳されています。

Slide 22 Sample 9

ざっとあてはめてみたら、最初に戻って、続けて歌ってみます。歌いにくいところ、気になるところが出てきます。また調整を加えます。

こうやって、残りのイルモスも作ってゆきます。部品を選んで、

19

Sample slide 6

①始まり ②終結 ③発展

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は、  
 ①衆 信者を聚めて之を楽しませ  
 ②始むるマリアムに 随がいて 舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ、

C ③ つなぎの部品  
 始むるマリアムに 随がいて 舞と鼓とを以て 爾の独生子に 歌わしむ

20

Sample slide 7

①始まり ②終結 ③発展

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる 聖にして尊栄なる爾の記憶は、  
 ③衆 信者を聚めて之を楽しませ、  
 ③始むるマリアムに 随がいて 舞と鼓とを以て爾の独生子に歌わしむ、

D つなぎの部品  
 衆 信者をあつめてこれをたのしませ 始むるマリアムに 随がいて 舞と鼓とを以て 爾の独生子に 歌わしむ

21

Sample slide 8

①始まり ②終結 ③発展

A ① ② ③  
 かれおそこかに 光栄を顕したればなり

B ① ② ③  
 かれおそこかに 光栄を顕したればなり

C ① ② ③  
 彼巖そかに 光栄を顕したればなり

D ① ② ③  
 かれおそこかに 光栄を顕したればなり

22

Sample slide 9

続けて歌ってみて、さらに調整する

童貞女よ、神妙の光栄に装われたる  
 聖にして 尊栄なる 爾の 記 おくは  
 衆 信者をあつめてこれをたのしませ  
 始むるマリアムに 随がいて 舞と鼓とを以て  
 爾の独生子に 歌わしむ 彼 おそこかに  
 光栄を 顕したればなり

8. 奉神礼基礎講座 八調入門2イルモス

微調整して組み立てて、歌を作るというのは、正教の歌づくりの伝統手法で、いわば職人仕事です。イコン画家が型を守って模写でイコンを描くのと同じです。近代以後の合唱聖歌の作曲家たち、たとえばボルトニャンスキー、チェスノコフとかラフマニノフも、この部品を組み立てるといって正教の伝統手法を踏まえた上でさらに和声や対位法を用いて合唱曲を作っています。日本語聖歌に翻訳したチハイやポクロフスキーも、この原則をふまえています。

とにかくやってみてください。祈祷書のことばに取り組むことに意味があります。音楽だけではなく、ことばの深い意味が見えてきます。

Slide23 裏技

さて、今日は、裏技もひとつお教えします。また祈祷書を見ます。実は生神女就寝祭には二つのカノンがあります。それぞれ二つずつ歌頌があります。修道院などでは二つとも行いますが、日本では普通第1のカノンだけを行っています。だから、第2のカノンだけをやるという手も考えられます。イルモスは「我が口を開きて、聖神に満てられ」、これはよく知っていますね。なので、神父さんに「二つ目のカノンにしましょう」と提案してみてもいいかもしれません。あくまでも裏技ですから、あまりオススメはしませんが。

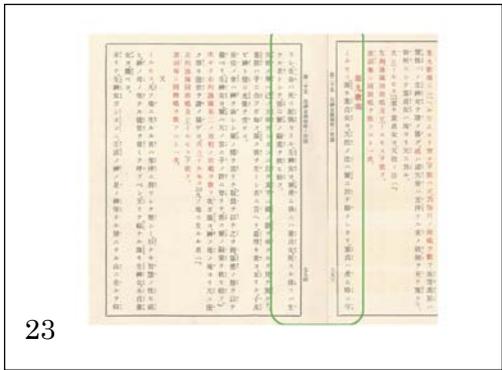
Slide24 常に福に代えて

それと困るのが12大祭では聖体礼儀の「常に福」の代わりに第1のカノンの第9歌頌の第1のイルモスを歌うというきまりがあつて、これは裏技では解決できません。これが今使われている聖歌譜ですが、難しいですね。これも、カンタンにしてみましよう。歌詞はこれです。宿題にしましよ。考えてみてください。オンライン奉神礼基礎講座「Zoomで実習、Zoomで質問」でお答えします。次は8月14日土曜日午後3時からです。そのときに就寝祭のイルモス、ほかの歌頌も紹介します。

お申し込みは西日本主教区か大阪教会あてに email ください。Zoomの招待と資料を送ります。今回の資料もご希望の方はメールくだされば、pdfでお送りします。

この「奉神礼基礎講座」は実際のナワザや知識を学びますが、奉神礼や聖歌の歴史や背景についてはもう一つのシリーズ「正教聖歌の伝統」でご紹介します。どちらもYouTubeに上げて、西日本主教区のホームページでリンクを紹介します。

第7回、第8回では今日お話した「替え歌」の伝統、「八調」の歴史的な背景や意味についてお話します。こちらをご覧ください。近日公開です。



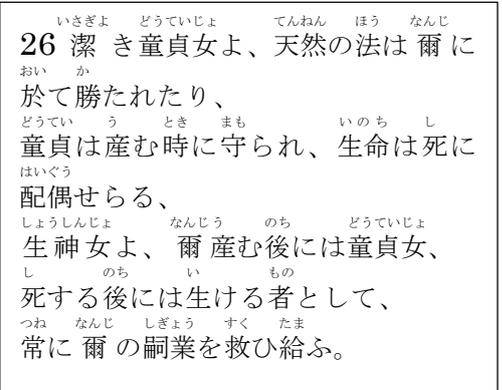
23



24



25



27